



保育施設にはいったら

千葉市保育施設医部会

保育施設に入ると、お子さんはお友だちと一緒に生活し、社会性を身につけていきます。その一方で、かぜや発熱などの感染症にかかる回数が一時的に増えることがあります。これは免疫が育っていく過程であり、体が弱いということではありません。特に、保育施設に通い始めた数か月は、咳や鼻水が続いたり、発熱を繰り返すことがあります。

体調が悪いときは、無理をせず自宅で休ませましょう。

【予防接種が大切】

ワクチンで防げる病気は、感染力が強かったり、子どもの命に関わる怖い病気が多いため、ワクチンを打てる時期になったらすぐに打つようにしましょう。



【体調を崩した場合の準備】

保育施設に入ると、急な発熱や体調不良が増えて保育施設に預けられなくなることがあります。あらかじめ、職場への配慮をお願いしたり、祖父母など身近な人をお願いできるか相談をしておくようにしましょう。また事前に病児保育など登録しておくこともおすすめです。



【集団生活におけるけが】

小さなお子さんの行動は予測が難しく、どんなに注意していても、転倒・ぶつかり・かみつきのひっかき等を完全に防ぐことはできません。保育園では安全に配慮していますが、子ども同士が関わる以上、すべてのケガを防ぐことはできないことをご理解ください。



【子どものホームケア】

保護者の方が、子どもの体調の変化に気づき、適切なホームケアを行うことは重要です。ホームケアについて学んでおくことで、症状の悪化を防ぐことにつながります。受診や対応に迷ったときは、医師が監修する「教えて！ドクタープロジェクト」の情報を参考にしてください。不安な場合は、かかりつけ医やに相談しましょう。



教えて！ドクタープロジェクト

